日暮れになると淋(さび)しくなるのよ。
なにがなんだか分からなくなるのよ。
― 歌謡曲の一節

ヨハネによる福音書 4 章 1～26 節

「私が、ここにいる」

カラッチ「キリストとサマリアの女」

しかし、サマリアを通らねばならなかった。(4)

聖書協会共同訳聖書「9 イエス時代のパレスティナ」

河合 隼雄

かわい・はやお

1928～2007 年

元・京都大学教授で、臨床心理学者、精神分析学者。

ユング心理学に造詣が深く、日本人の精神構造にも関心。

人の心など 分かるはずはない。

命懸けで向かわなければ、相手は理解できない。

ブレーズ・パスカル

1623～62 年

17 世紀フランスの哲学者、神学者。

「人間は考える葦である」など、多くの名言を残す。

自己の悲惨を知らずに神を知ることは、傲慢を生む。
神を知らずに自己の悲惨を知ることは、絶望を生む。
イエス・キリストを知ることは中間をなす。
というのも、われわれはそこに神と われわれの悲惨とを見いだすからである。

ある時 ある婦人の担当員が・・・〔話してくれました〕。

「昨夜、十二時過ぎ 自殺の予告電話がありました。その人は 自分は孤独だ、誰も信じられない、誰も友もない。わたしはこの孤独に耐えられない、死ぬ外ないと訴えるのです。・・・

話をしているうちに どんなに話しても、わたしは孤独だと言うその人の言葉に わたしは悲しくなりました。そしてとうとう わたしは大きな声で、『わたしがここにいるじゃぁありませんか』と言いました。その時、わたしは泣いていたと思います。

すると、相手は、びっくりしたように沈黙しました。そして しばらくそのままでした。やがて話が始まった時、話の調子は変わっていました。もう わたしは孤独だとは申しません。暫(しばら)く話しましたが、自殺は思いとどまったようでした」

―「いのちの電話」奉仕の一牧師の報告

わたしを信じなさい。(21)
それは、あなたと話しているこのわたしである。(26)

さあ、見に来てください。・・・もしかしたら、この方がメシアかもしれません。
(4：29)

この水を飲む者はだれでもまた渇く。
しかし、わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。
わたしが与える水はその人の内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。
(13～14)

渇いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。
わたしを信じる者は・・・その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。
(ヨハネ 7：37～38)